

活動紹介

文化財保護法53条に基づいた国宝・重要文化財公開時の保存環境調査

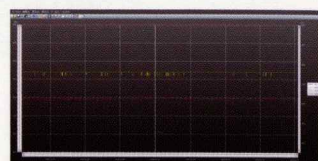
国宝・重要文化財が展示されるまでには様々な制約をクリアしなければならないのをご存じでしょうか。今回は国宝・重要文化財が展示されるまでの保存環境調査と文化財保護法53条についてご紹介します。

国宝・重要文化財を展示する場合、展示場所（ケースの内外）や保管場所（収蔵庫）、移動経路を前年度の同時期と展示前、展示期間中において環境調査を行い、その結果を報告する必要があります。関連する法律には文化財保護法53条があり、次のように記載されています。

「重要文化財の所有者及び管理団体以外の者がその主催する展覧会その他の催しにおいて重要文化財を公衆の観覧に供しようとするときは、文化庁長官の許可を受けなければならない。」

つまり、文化庁長官の許可が出ないと国宝・重要文化財の借用・展示すらできないのです。その許可には保存環境（温湿度やガス濃度）の調査結果を基に、文化財活用センターより調査意見書を出してもらい、文化庁に提出しなければなりません。

当館は2023年に熊本県内3館目の公開承認施設となり、手続きが簡素化され、展示会終了後に会期中の環境調査データ提出のみで良しとなりましたが、展示環境の整備は最も気をつかう部分ですので、展示前の調査は丁寧に実施しています。国宝・重要文化財が展示されていたら、このような苦労もご観覧いただけますと幸いです。（保存科学：坂本）



温度湿度グラフ



ケース内ガス濃度調査

資料紹介

熊本層群のイノセラムス化石

熊本平野の東方の台地には託麻三山（神園山・小山山・戸島山）と呼ばれる丘陵群があります。ここには中生代白亜紀後期の地層である熊本層群が分布しており、天草地域で海生動物化石を多く産出する姫浦層群の樋島層と対比されています。現在は三山とも宅地や雑木林に覆われており、なかなか地層が露出している場所を見ることはできませんが、かつて神園山や小山山ではイノセラムス アマクセンシスの化石が採集されていました。イノセラムスは中生代後半に栄え、白亜紀末に絶滅してしまった大型の二枚貝で、その中でもアマクセンシスはサントニアン（約8500万年前ごろ）の時代を示す重要な示準化石です。底生の二枚貝故に成体の移動拡散能力は低いものの、プランクトン幼生期の漂流能力が高かったとみられ、熊本以外にも北海道や四国など日本各地の同時代の地層から化石が見つかっています。（地質：南部）



熊本博物館
KUMAMOTO CITY MUSEUM

くまはくNEWS LETTER Vol.13
発行 熊本博物館
〒860-0007 熊本県熊本市中央区古京町3-2
TEL. 096-324-3500 FAX.096-351-4257
kumamoto-city-museum.jp



肥後の見張り番
しゃちべえ

くまはく

NEWS
LETTER

Vol.13



収蔵品展 くまはくコレクション

かがやけ！
熊本の刀と絵画

2024年10月4日（金）
～12月22日（日）

- 企画展案内
収蔵品展「くまはくコレクションかがやけ！熊本の刀と絵画」
企画展「送るー熊本県下の精霊流しー」
- 特別展報告
夏季特別展「旅するタネ」
- イベント報告
七タプラネタリウム
サタデーナイトミュージアム
- 活動報告
博物館実習
- 活動紹介
文化財保護法53条に基づいた国宝・重要文化財公開時の
保存環境調査
- 資料紹介
熊本層群のイノセラムス化石

《刀 銘 九州肥後同田貫兵部 / 慶長三年八月日》
伝・矢野三郎兵衛吉重（伝・細川忠興下絵）《牧馬図》
矢野派《横矢旗（賤ヶ岳合戦図）》
杉谷雪樵《虎図》

熊本博物館
KUMAMOTO CITY MUSEUM

2024年11月

企画展案内

収蔵品展 「くまはくコレクション かがやけ！ 熊本の刀と絵画」

2024年10月4日(金)～12月22日(日)

70余年の歴史を有する熊本博物館。近年の収蔵品整理・調査によって、当館にはこれまでほとんど知られていなかった熊本ゆかりの刀剣や絵画が多数収蔵されていることがわかってきました。本展では、これまでの成果をもとにバラエティ豊かな収蔵品(くまはくコレクション)を一挙大公開しています。前期(～11月10日まで)と後期(11月12日～12月22日まで)で作品をほぼ入れ替えますので、2度楽しめる内容となっております。

また、本展の刀剣展示に関連して、島田美術館・島原城・玉名市立歴史博物館こころピアとの4館連携事業スタンプラリー「肥後島原同田貫道中一海を貫く軌跡」を開催していますので、あわせてお楽しみください。

(美術工芸:竹原)



企画展 「送る一熊本県下の精霊流し」

2025年3月25日(火)～6月1日(日)

精霊流しは盆に行われる精霊送りの一つの方法として知られています。かつては県下で広く、かつ大規模に行われていましたが、現在はその伝承を確認できる場所も限られつつあります。

本展では県下精霊流しの近代における変化を取り上げながら、現存する精霊流しを実物や写真パネルなどでご紹介します。

本展を通して県下民俗行事の豊かさに触れていただくとともに、伝承が難しくなりつつある民俗行事の現状を知っていただく機会になれば、幸いです。

(民俗:湯川)



特別展報告

夏季特別展 「旅するタネ」

2024年7月13日(土)～9月1日(日)

今年の夏季特別展は植物の「タネ」をテーマに、種子の散布を「旅」と表現して紹介する展示を行いました。会場には身近なところで見られるタネや、おもしろい形のドングリ、外国の大きなひつつきむしなど400種を超える標本を展示しました。何ととっても今回の目玉は重さ10kgにもなるフタゴヤシのタネで、重さ体験コーナーからは「重たい!」「持ち上がらない～!!」などの声がたびたび聞こえ、小さいお子様から大人の方まで楽しそうにチャレンジしている様子が見られました。期間中は講演会やワークショップ、クイズラリー、さらには特別展オリジナルキャラクターのタネキャラ総選挙を開催し、たくさんの方にご参加いただきました。今回の展示を通してタネの賢い戦略やヒミツ、新たな一面などを知り、今後も「タネ」が注目される機会が増えたら嬉しく思います。

(植物:山口)



イベント報告

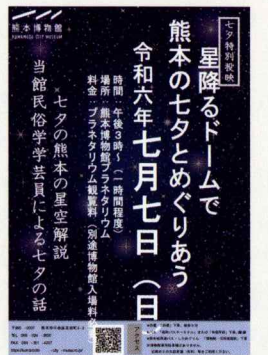
セタプラネタリウム

2024年7月7日(日)

お子様向けに6月22日、23日、29日、30日、7月6日、7日のファミリーアワーで、セタのお話とセタの夜の星空解説、そして「ほしのくにでみつけたたからもの」の投映をしました。とても好評で日曜日は満席になるほどでした。

また、大人向けに7月7日の15:00からセタ特別投映「星降るドームで熊本のセタとめぐりあう」を行いました。熊本に伝わる星の名前をつかった星空解説をした後に、国選択無形民俗文化財「八代・芦北のセタ綱」をはじめ、全国の変わったセタ行事について民俗学担当学芸員が講演しました。他分野とプラネのコラボを今後も続けていけたらと考えています。

(プラネタリウムスタッフ)



サタデーナイトミュージアムを開催しました！

2024年7月20日(土)・7月27日(土)

熊本城一帯で行っている「夏のお城祭り」の時期にあわせ、当館も7月20日・27日の二日間、「サタデーナイト・ミュージアム」と題して夜間9時まで延長開館しました。当日は、ナイトプラネタリウム「銀河鉄道の夜」の投映や簡単な「こども科学工作」、夏季特別展「旅するタネ」や動物資料にまつわる「ミュージアムトーク」など、様々なイベントを準備して多くのお客様をお迎えしました。熊本城おもてなし武将隊が誘導する展示会巡りがあったり、南側の屋外エントランス付近にはハンバーガーやかき氷などを提供するキッチンカーもお目見えしたり、普段とは趣の異なる博物館を楽しんでいただきました。

(理工:山口)



活動報告

博物館実習

2024年8月21日(水)～8月26日(月)

熊本博物館の8月後半は、毎年博物館実習のシーズンとなります。今年は人文系8名、自然系5名の計13名の実習生が、6日間の実習に取り組みました。

今年度は初めての試みとして、実習初日にアイスブレイクを導入。実習生は様々な大学から集まっているので、初対面の緊張をほぐすという意味ではとても効果があったように思います。実習では例年通り各分野における資料の取り扱いや資料整理など、実践的な講義を行いました。また、プラネタリウム業務など、博物館における来館者対応も体験してもらいました。最終日には、毎年恒例の実習生グループでの展示発表会を実施！今年も実習生同士でアイデアを出し合い、各グループの展示はとても充実したものとなりました。

(歴史:木山)

